

2016年10月3日

### 朝礼の話 (2016年10月)

皆さんお早うございます。今年の夏も記録的な猛暑で9月に入っても真夏日が続きましたが、「暑さ寒さも彼岸まで」でお彼岸を過ぎたころより随分と過ごしやすくなってきました。先週初めから週末にかけて秋雨前線が活発に活動し各地で雨模様の天気が続きました。今週も台風18号の影響もあり雨天の多い天気が続きそうです。今週土曜日(8日)は二十四節気で寒露の日であります。寒露とは、晩秋から初冬にかけておける露をいいます。因みに、23日(日)が霜降、来月7日(月)が立冬となります。暦の気候には若干早いといえますが、日一日と本格的な秋の気候に近づいてきます。天高く馬肥ゆる秋です。適度な運動で汗を流し、美味しいものを食べて、健康な体づくりに励みましょう。

先月20日～21日にかけて、日米両国で世界の金融市場が注目した金融イベントがありました。米国では、連邦準備理事会(FRB)の米連邦公開市場委員会(FOMC)が昨年12月以来の利上げを行うかどうかで世界の耳目が集まりました。結果は、利上げ見送りとなりましたが、年内の利上げの可能性を大きく印象付けました。11月8日の米国大統領選挙までFRBは動かないとの観測もあり、12月の利上げが最も可能性が高いといわれていますが、内外の経済情勢の変化でFRBの利上げ判断も動くともみられています。ドル金利上げは、日米金利差の拡大、即ちドル円為替相場には円安・ドル高に作用しますが、利上げ見送りでドル円相場には大きな動きは出ませんでした。日本では、日銀が21日開いた金融政策決定会合で、長短金利を誘導目標とする新しい金融緩和の枠組みの導入を決めました。現状のマイナス金利政策は維持するとともに10年物国債利回りを0%程度に誘導する。2%の物価安定目標は堅持し、その実現まで金融緩和を継続する方針を示しました。日銀は2013年4月に量的質的金融緩和政策(異次元緩和策)を開始し、3年半が経ちました。2014年10月に追加緩和策を、2016年1月には、マイナス金利の導入を決定しました。この間、物価の2%の安定実現への道は遠く、その実現のためには、緩和の枠組みをこれまでの量重視から金利重視へと変更することが必要と判断しました。日銀はこうした政策を2%の物価目標が実現し、安定するまで続けることを明確にしました。今後の追加緩和の手段として、①マイナス金利政策の強化(いわゆる深堀り)②長期金利操作目標の引き下げ③資産買入れの拡大④資金供給量の拡大ペースの加速一を挙げています。3年半の国債買入れで市場に出回る国債が極端に少なくなるなかで、資金供給量の拡大をこれまで通り続けていくことが難しくなっています。量重視から金利重視に枠組みを変えることで、金融緩和の持続性を担保したものといえます。日米の金融政策の方向性の違い、即ち金利差拡大の流れからいえば、ドル円相場は円安・ドル高に向かうのが理に適っていますが、現実にはリスクオフの安全通貨として円が買われる流れに大きな変化は見られません。ドル円相場は、米国大統領選挙結果、EUの金融動向、中国含めた新興国の経済動向など世界の経済状況に大きく左右されることには変わりはありません。以上